



雨の降る中での稚魚の放流

児童たちが育てた 自分の稚魚も放流

小雨降る3月23日、栗山川横芝せきで、330人の小学生たちがサケの稚魚110万匹を放流しました。この中には、2月から各小学校で育てられていた稚魚も含まれており、元気に泳ぎ去って行く稚魚に歓声を送っていました。3・4年後の里帰りが楽しみですね。



よこしば

⑮ 広報よこしば
もといふも大儀なりしか兄嫁は
吾が手を握るその細き手に
佐瀬 初音
枯れ草の中に萌えてしよもぎ摘み
舅の好みし草餅供ふ

歌壇

北田 ふじ
主治医より今が大事と諭されて
夫はうなづくまこと素直に
向後 泰治

那須 清江
血縁のぬくもりうすき身を委ね
老いの窮みを施設にすこす
萩原 信一
四股踏みて孫挑みくる座敷相撲
転びてやれば手刀をきる
吉岡 信子
亡き夫のこよなく愛でし臘梅の
匂ふ季きてはや一周忌
斉藤 秀男
運命を見放す事の罪深し
訪れる孤児会はせず帰すは
渋谷 静子
昨日よりの頭痛治らずひそやかに
冬日の中を黒き猫ゆく

秋葉 とく
退職の間近き妹うれしさを
抑へて語る後のプランを
掛川 友代
嫁ぎきて三年となれる嫁はいま
みこもるを告ぐ頬をあからめ
宇井 勇
初任地の室戸の岬夢に顕ち
爆ぜむばかりに恋ほしさつもの
海保 きみ
巻き貝を耳にあつれば海の詩
きこゆと母は教へくれしよ
（選者） 斉藤つね子
戦犯も運命なりしと受けとめて
心しづかに夫の老いづく

私のひとこと



私どもの集落では、古くから舞い継がれてきた「大神楽」（獅子舞）があります。その由緒は詳らかではありませんが、伝承や古文書等によると、明和年間（1764～1771）当区の妙見神社において奉納された「平獅子」の舞いに始まると伝えられます。江戸時代からは村の年中行事として、正月の大祭、夏祭、秋祭、霜月の15日の紐解き（七五三祝）など、氏子の安全を祈って舞い続けられました。

も四十の手習いで「横笛」を習い始めました。師匠方の熱意によって、保存会の方々とともに、私も一通りの曲目をマスターすることができました。その後、村の青年たちも加わり、昨年の七五三祝には、若い人ただけで獅子舞を披露するまでに至りました。会長の市原正博さんを中心に、大祭での奉納や、町民文化祭・農協祭・村をあげての夏祭などに参加しています。昨年夏祭には、若連によって手造り神輿が誕生、今年からは本町の若連の方々に祭囃子を教えていただいています。

笛の音に魅かれて

伊能 央（鳥喰下）

各地の郷土芸能の多くは、時代の移り変わりとともに、年輩者が辛じて保存しているというのが現実のようであり、ます。由緒ある芸能を若い世代に橋渡しするつもりで、私

たにお囃子の練習を始められ、私どもの師匠である伊野竹雄さんが指導に当たられています。きつと今年の夏祭には、情緒豊かなお囃子が響き渡ることでしよう。

郷土芸能の途絶えている集落や、お囃子のない集落の皆さん、お囃子の練習を始めてみませんか。北清水の方々は、新